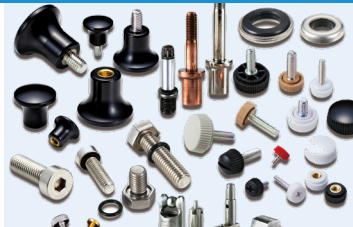




時代の進化によって要求される機械の精度・品質はさらに高度になる。1/1000mm単位で対応する技術力、素材への知識や経験を蓄積した人材がそんな要求に応える

- 株式会社大西製作所



大丸鋲螺では初代オリジナル製品の「ユリヤ化粧ネジ」の量産化に成功して以来、その後も数多くの製品を開発してきた

- 株式会社大丸鋲螺製作所



ボルトの内側に溝を掘り、ゴムのOリングを埋め込んだシールビス。耐油性、耐熱性、耐候性に優れ、これ1本で漏れ防止機能を持つ革新的な製品だ

- 株式会社大丸鋲螺製作所



創業時より使われている「コリーのロゴマーク」は信頼の証

- 株式会社大丸鋲螺製作所

まかせたいんですけど。現場のほうは人材育成がいい感じで進んでいますが、経営となると向き不向きもありますし、難しいですね。

原田 失敗してもいいからこういう事業計画を思い切ってまかせたら、意外とみんなやってくれますよ。大阪府もアドバイスしてくれますし。

革新し続けることを浸透させ 次世代へとつないでいく。

大西 これまでの3回の経営革新計画策定を通じて、様々な設備投資をし、会社の方向性を広げてきました。おかげで今、インターネットを通じてとても多くの案件が舞い込むようになりました。

細山田 工場もどんどん拡張されていて、凄いですよね。

大西 ものづくりの方向性を「超精密加工」へと変えてからは順調で、最新の加工複合機を次々と導入して顧客の要望に応えてきました。ただ同時に、繁忙期に新規の顧客を待たせてしまうという課題も生まれました。

細山田 それはもったいないですね。

大西 今後はそういうことをなくすために、飛び込みの注文でも対応できるような、機動力のある部隊を設立したいですね。また最近5軸複合加工機を導入される企業も増えましたが、なかなか使いこなせていないところもあります。そういう会社に対して、スキルを持つ当社の社員がアドバイザーとして対応できればとも考えています。

原田 それはいいですね。うちの場合、2012年に「オフィス古紙による事務用品(封筒、便箋、ノート、名刺用紙等)等の製造・販売」が、2回目の経営革新計画として承認されました。これは会員企業から不用コピー用紙を回収し、オフィス用品などにアップサイクルして還元するサービス「PELPI!(ペルプ)」として発展しています。紙を循環させる計画を4年前に達成したわけですが、それが今、SDGs

としてクローズアップされ大手企業からも注目されている。継続することで達成後もネットワークは広がりを見せています。

大西 「PELPI!」はアイテム数も増えているんですか？

原田 もともと「オフィス古紙の再生率が低い」という課題解決のためにはじめたので、今はアイテム数というより会員数を増やすことを目標にしています。現在、全国で200社ほどですね。

細山田 そんなに参加されてるんですね。

原田 これも経営革新計画で大阪府から承認していただいたという「後ろ盾」も影響があるのかなと思っています。承認を受けたことで、金融機関や取引先など対外的な信用も増しますよね。

大西 それはたしかにあります。

原田 「PELPI!」では参加される会社の志というか、環境への意識の高さを勉強させてもらっています。当社では以前から紙をつくるのに欠かせない、供給源である地元の川を、毎月、有志で清掃する活動もしてきましたが、2018年からは先ほどお話しした高度排水処理設備を稼働させています。これは経営革新計画承認企業の支援策である日本政策金融公庫の低利融資制度を活用して導入された設備になります。今後も再生紙メーカーとして、資源の再生など環境に貢献する素材の商品化と、古紙回収から製造、販売まで含めた一貫システムをつくり上げたい。当社は7年後に創業100周年を迎えます。そこで大きな花を咲かせられるようにこれからも頑張っていきたいと考えています。

細山田 私の場合、会長職になって8年になりますので、おふたりとは立場が違うのですが。それでも先ほど申しましたように社内の変化、革新につながるような新製品やシステムを開発しようという若い世代の力を感じます。今後も大丸鋲螺のDNAとして革新を続けて欲しいし、そうなりつつある。「革新」というたいそうな言葉ではなくて、「去年とは違うこと」を追い求めてものづくりに取組んでいければいいと考えています。それこそが、本当の意味での経営革新だと思います。



経営革新計画シンボルマーク

大阪府では、中小企業者の経営革新を支援するため、大阪府広報担当副知事もずやんをモチーフにした「承認企業シンボルマーク」を平成27年2月に策定し、承認企業に、名刺や会社案内、ホームページ等で活用していただいています。「達成企業のシンボルマーク」は「優良経営革新企業の証」として平成30年1月に策定し、経営革新に取組まれ、計画期間終了時に規定の経営指標の目標伸び率を達成した「達成企業」に活用していただいています。

大阪府「中小企業等経営強化法に基づく
経営革新計画のご案内」



3社は経営革新計画の策定をひとつの契機とし、変化化する社会の中で未来を築き続けています。計画どおり進まなかった際も、それを他の事業につなげて成功に結びつけたり、支援策も有効に活用して低利融資で設備を導入されたりと、組織や業種は異なっても3社とも「柔軟な考え方をもち、チャンスに気づきモノにしておられる」ことがわかりました。そこに「達成」のひとつの秘訣があると感じ、私自身とても良い刺激を受けました。

TODAY'S MEMBERS

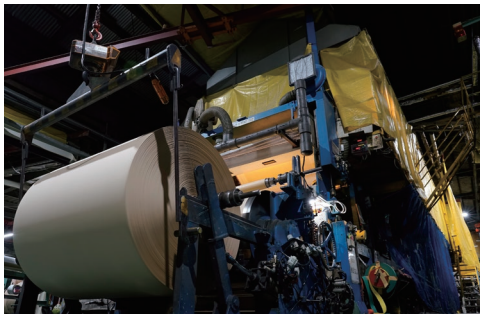


最新の機械設備の導入と人材育成で、 精密研削の難加工のニーズに対応。

戦後まもなく天王寺区で創業し、1991年松原市に工場を開設後は、この地で大手企業の工作機械製作への着手をきっかけに躍進を遂げ、事業拡大してきた大西製作所。その後、発電関係や航空機エンジンの製造に携わり、大量生産型から難加工の製品づくりへと進化。フライス・穴あけなどの同時加工や3D加工が可能な最新の多軸複合機や研磨機まで圧倒的な数の加工機を保有し、ほとんどの工程を社内で一貫生産できる強みを持つ。同時にそれらを扱える人材の育成にも力を入れ、次世代への基盤も築く。

株式会社大西製作所

松原市別所4-8-5
TEL 072-333-7177
http://www.onishi.co.jp/



自然と共に生きる持続企業を目指し 循環型社会に貢献する商品開発を。

前身の山陽紙業株式会社を経て1957年に設立。当初から古紙再生メーカーとして、セメント袋の口縫いに使用されるクレープ紙を中心とした再生紙を製造してきたが、近年は次世代の基盤として自社オリジナル商品によるBtoC市場開拓に注力。梅炭などをすき込んだ紙雑貨「SUMIDECO」や「crep」ブランドの確立、さらに企業から出るオフィス古紙の再生プロジェクト「PELPI!」など、経営理念である「循環型社会に貢献する」を徹底的にこだわった変革と挑戦が、今まさに進行中だ。

山陽製紙株式会社

泉南市男里6-4-25
TEL 072-482-7201
https://www.sanyo-paper.co.jp/



「創造力・技術力・販売力」を誇る 締結に関するスペシャリスト。

高度経済成長にともない工業製品の需要が一気に増加した時代から、「少ロット・多品種」が求められる現在も変わらず時代の変化に対応してきた大丸鋲螺製作所。多様な締結部品の製造方法を熟知し、最適の製造法を提案して高品質と低コストを提供する営業力、市場ニーズを先取りし既存商品と異なる価値を提供できる開発力で発展してきた。約40年前からはじまったオリジナルの開発では、ロングセラーのシールビスを筆頭に防水効果など付加価値の高い製品を生み出し続けている。

株式会社大丸鋲螺製作所

大阪市東成区深江南3-1-12
TEL 06-6972-6681
https://www.daimaru-neji.co.jp/

